

令和元年 近畿地区の造船業・船用工業の現況

近畿運輸局海事振興部

I. 造船業

1. 造船業の概要

近畿運輸局管内の造船事業者は、令和元年12月末現在で54社56工場です。

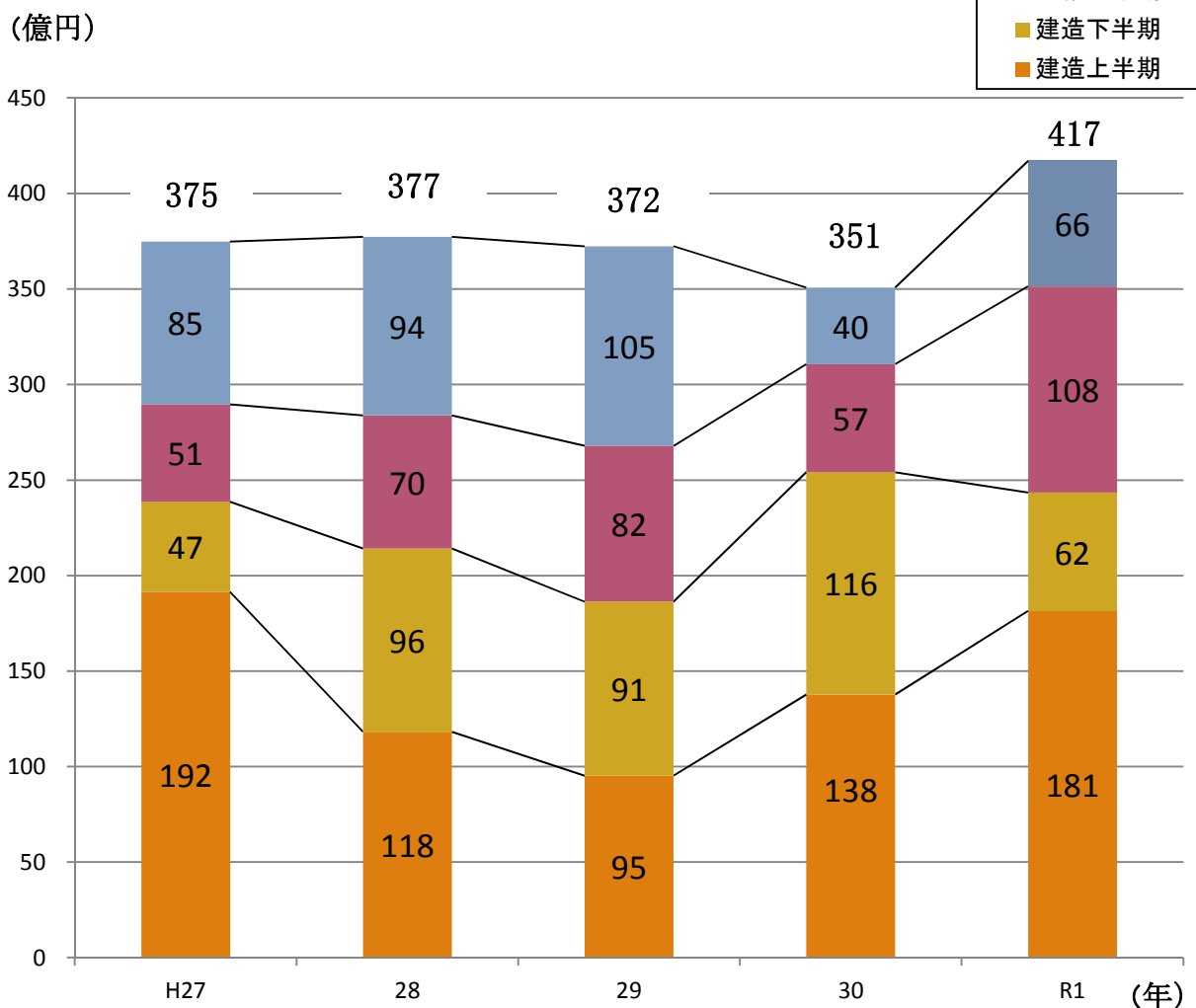
令和元年の総売上高(建造及び修繕の合計)は417億円で前年と比べると18.9%の増加となりました。

内訳としては建造で243億円(前年比4.2%減)、修繕で174億円(前年比79.7%増)となりました。

全国計では、令和元年の総売上高は1兆9,246億円で前年と比べると6.5%増となりました。

内訳としては建造で1兆8,091億円(前年比7.2%増)、修繕で1,155億円(前年比3.3%減)となりました。

図 I-1 総売上高の推移



※20トン未満及び長さ15m未満の船舶の実績についても計上

※総トン数を有しない船舶(艦艇等)の実績についても計上

※売上高は小数点以下を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

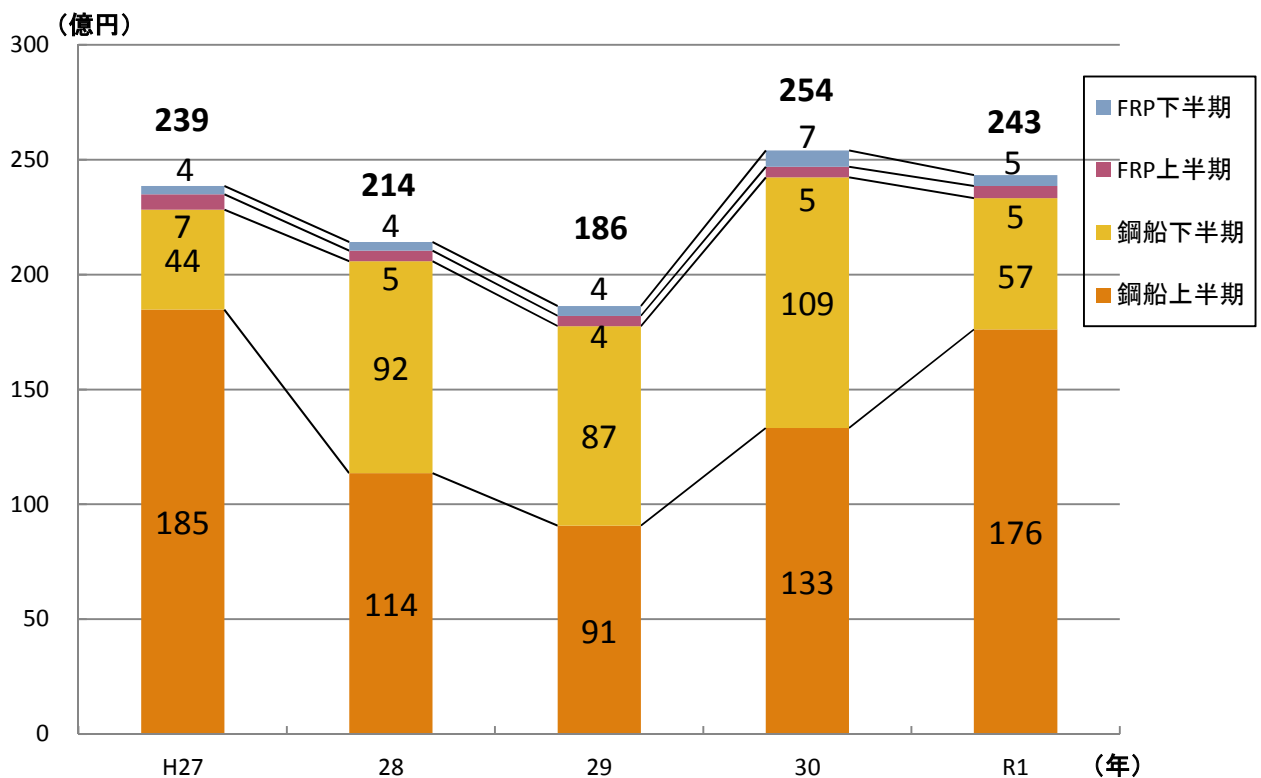
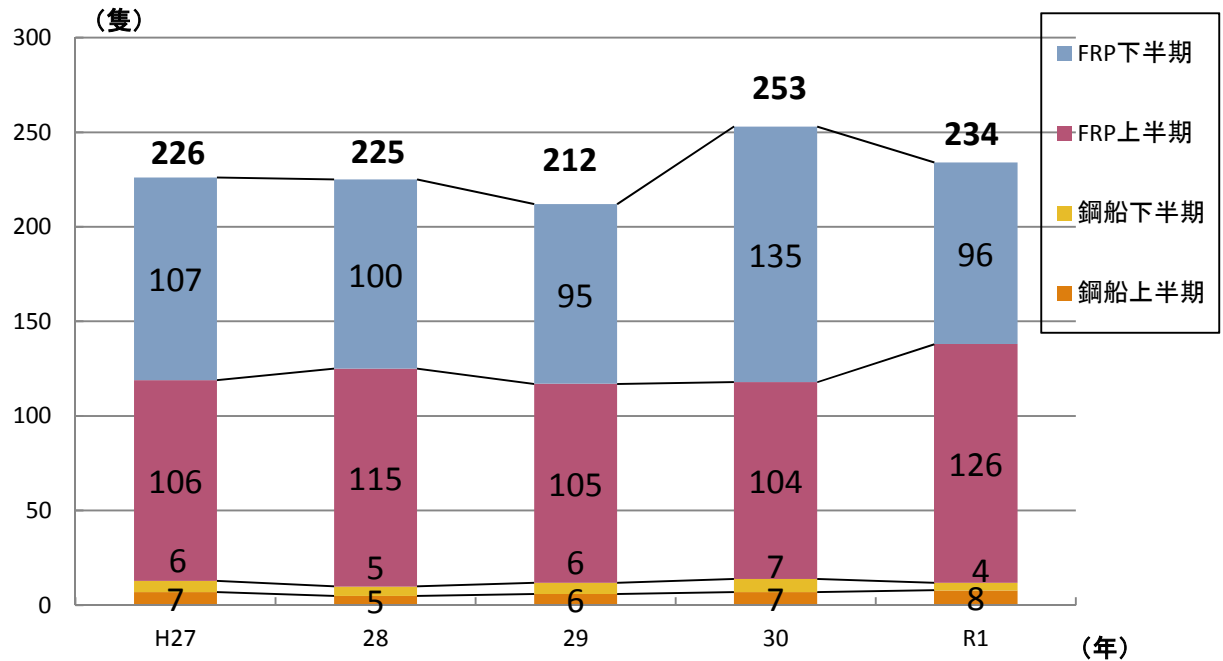
本資料では近畿運輸局管内(大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県)の実績を示している。
(兵庫県については神戸運輸監理部が管轄)

2. 建造実績

令和元年の建造実績は、234隻、243億円で、前年と比べると隻数で7.5%減、売上高では4.2%減となりました。

内訳としては、FRP(アルミ船及び木船を含む、以下同じ。)は222隻、10億円(前年比7.1%減、14.1%減)で、鋼船は12隻、233億円(前年比14.3%減、3.7%減)でした。

図 I - 2 建造隻数及び売上高の推移

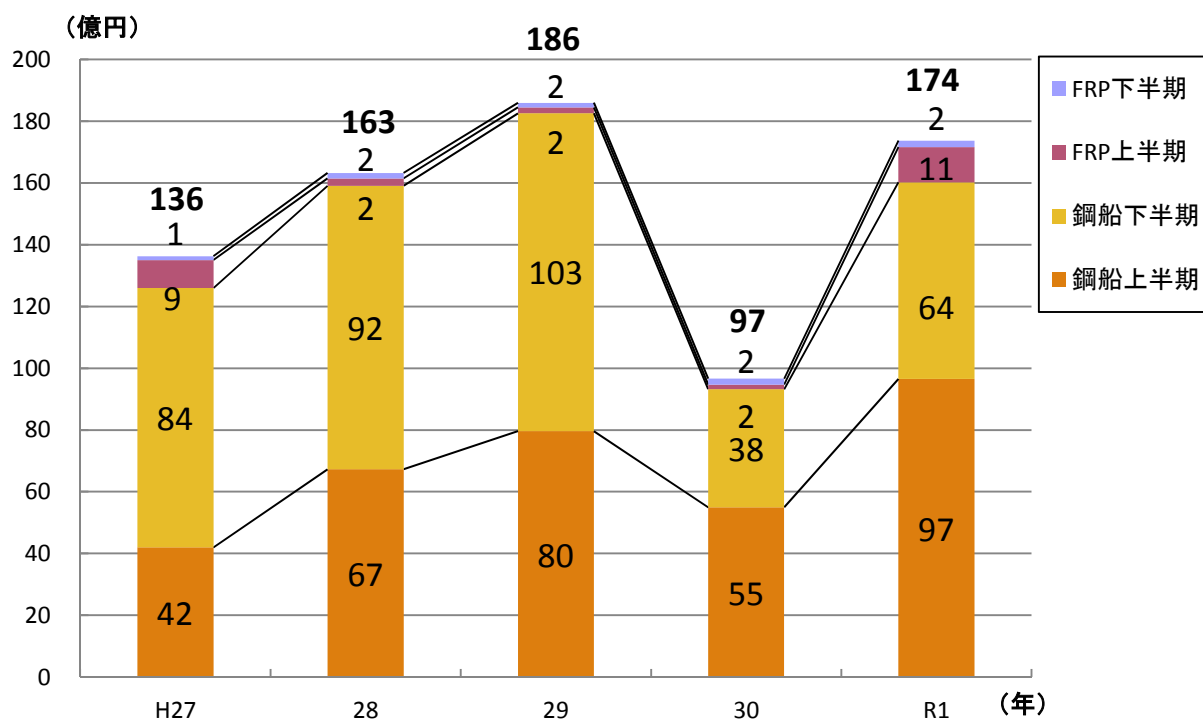
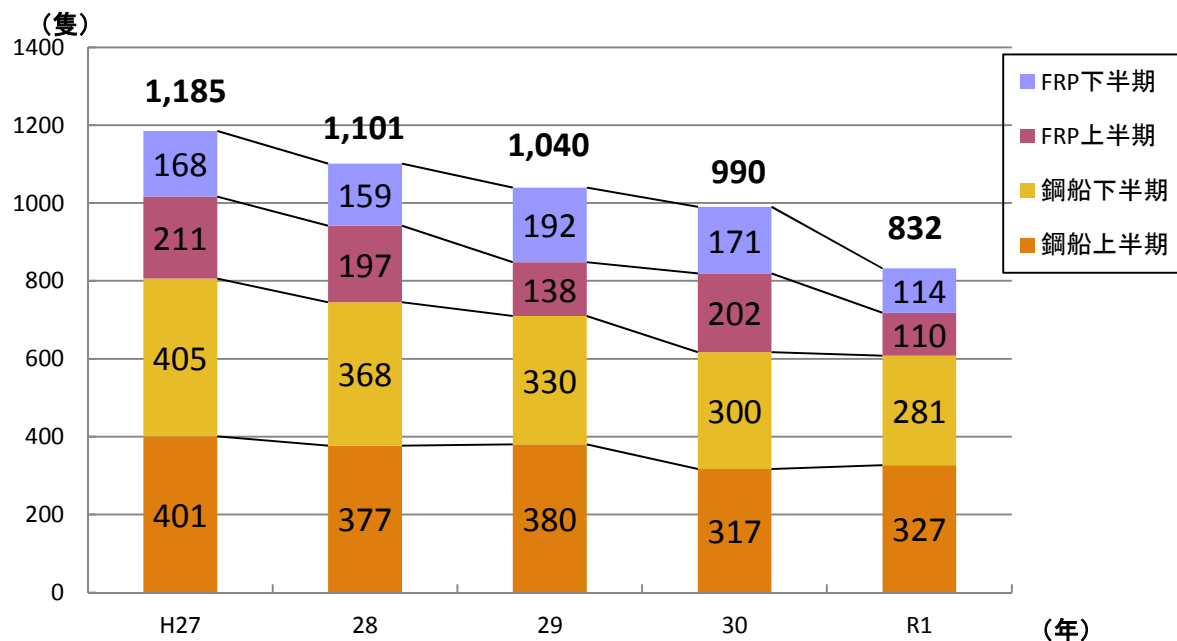


3. 修繕実績

令和元年の修繕実績は、832隻、174億円で、前年と比べると、隻数で16.0%減、修繕高は79.7%増となりました。

内訳としてはFRPは224隻、13億円（前年比39.9%減、293.7%増）で、鋼船は608隻、160億円（前年比1.5%減、71.9%増）でした。

図 I - 3 修繕隻数及び修繕高の推移



Ⅱ. 船用工業

1. 船用工業の概要

近畿運輸局管内の船用工業事業者は、令和元年12月末現在で120社122工場です。

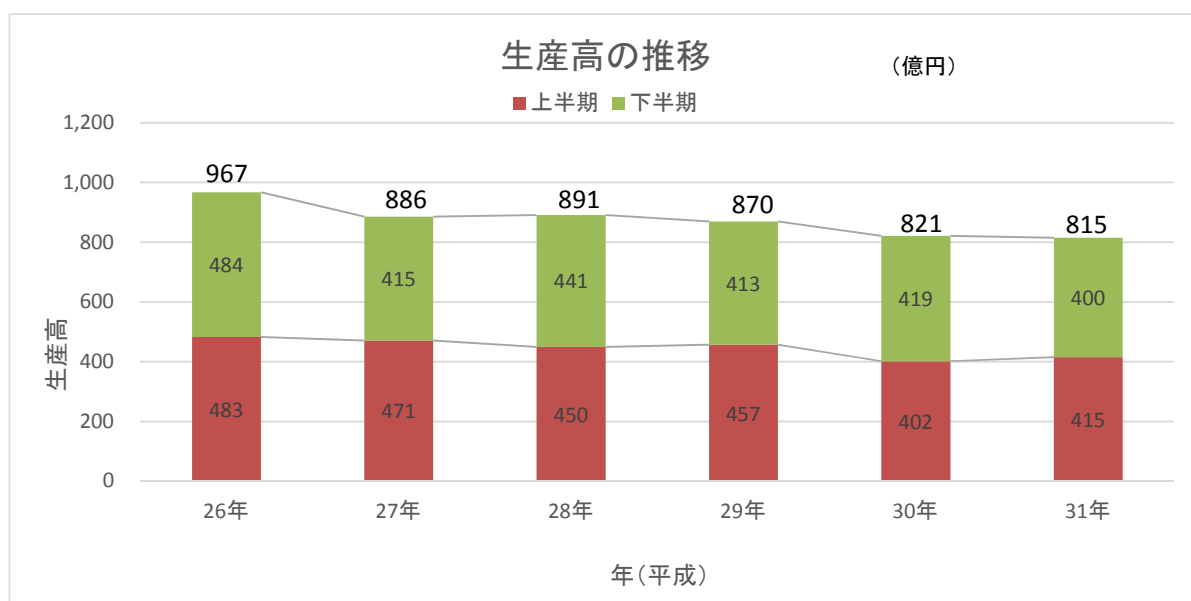
令和元年の総生産高(生産及び修繕の合計)は約869億円で前年(平成30年実績866億円)と比べ3億の増加となっております。

2. 生産実績

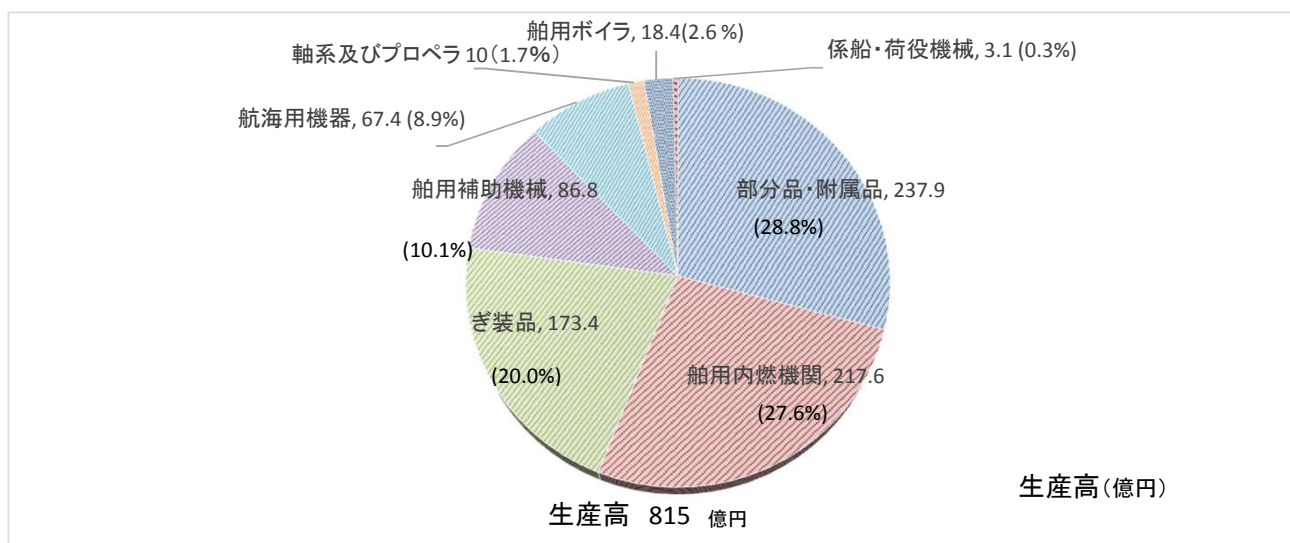
令和元年の生産高(修繕高除く)は815億円(前年比0.7%減)で、内訳としては軸系及びプロペラ、船用ボイラ及び航海用機器がそれぞれ前年比30%、14%及び8%の減少となっていることが影響しています。

品目別生産高で見ると、部分品・附属品が238億円と最も多く、次いで、船用内燃機関が218億円、ぎ装品が173億円、船用補助機械が87億円、航海用機器が67億円となっており、これら5品目で全体の約96%を占めています。

図Ⅱ-1 生産高の推移(平成26年-令和元年)(管内)(修繕除く)



図Ⅱ-2 品目別生産高及び構成比(令和元年)管内(修繕除く)

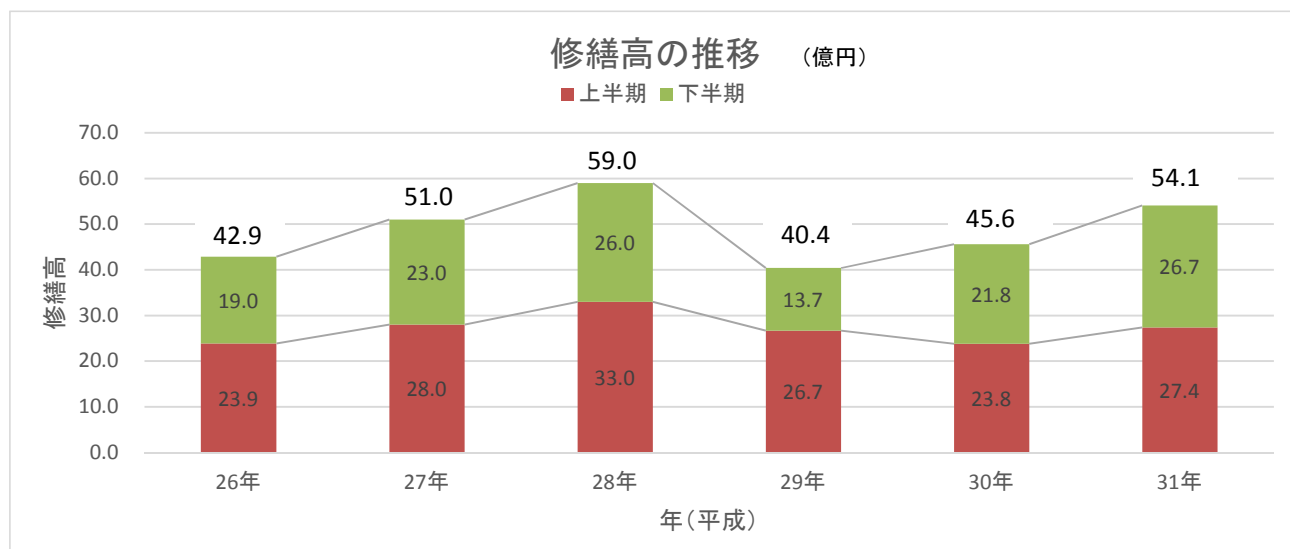


3. 修繕実績

令和元年の修繕高は約54.1億円で、前年(平成30年実績約45.6億円)と比べると約18%の増加となりました。

品目別で見ると、船用内燃機関が約23.6億円、船用補助機械が約27.5億円となっており、この2品目で修繕高の約94.5%を占めています。

図Ⅱ-3 修繕高の推移(平成25年-令和元年)(管内)



図Ⅱ-4 品目別修繕高及び構成比(令和元年)管内

